

平成28年度日本小児外科学会
第6回定例理事会議事録

日 時：平成 29 年 3 月 16 日（木） 11：00～16：00

会 場：日本外科学会 会議室

出席者：黒田達夫（理事長）、越永従道（副理事長）、仁尾正記（理事・会長）、
窪田正幸（理事・副会長）、八木 實、漆原直人、米倉竹夫、奥山宏臣、山高篤行、
廣部誠一（以上理事）、上野 滋、濱田吉則、前田貢作（以上監事）、
田口智章（第 53 回学術集会会長）、猪股裕紀洋（第 31 回秋季シンポジウム会長）、
中野美和子（第 32 回秋季シンポジウム会長）、
島 秀樹（第 33 回秋季シンポジウム事務局）、
松藤 凡（第 34 回秋季シンポジウム会長）、田尻達郎（施設認定委員長）、
増本 幸二（専門医認定委員長）、菱木知郎（庶務委員長）、
渡井 有（財務会計委員長）、藤野明浩（庶務副委員長）、
浦尾正彦（財務会計副委員長）、和田 基（庶務委員）、仁田尾慶太（事務局）

議事案件：

議 事：

1. 第6回定例理事会の議事録署名人は、山高篤行理事、八木 實理事とした。
2. 平成28年度第5回定例理事会議事録につき、事前配信された内容について確認され、修正点等あれば1週間を目途に事務局に連絡することとした。

3. 報告事項

1) 理事長報告（黒田理事長）

- (1) 日本製薬工業協会からの寄贈本「製薬協ニューズレターno.177」を受領した。
- (2) 日本消化器外科学会からの通信文「事務局移転のお知らせ」を受領した。
- (3) 日本外科学会からの寄贈本「SURGERY TODAY vol47-2」を受領した。
- (4) 日本外科学会からの寄贈本「SURGERY TODAY vol47-3」を受領した。
- (5) 日本医療機能評価機構からの寄贈本「NEWS LETTER3月号」を受領した。
- (6) 日本医療安全調査機構からの寄贈本「医療事故調査制度開始 1年の動向」を受領した。
- (7) 日本医学会からの寄贈 DVD「第 21 回日本医学会公開フォーラム 乳がん」を受領した。
- (8) 難病のこども支援全国ネットワークからの寄贈本「「がんばれ！」 vol.161」を受領した。
- (9) 最高裁判所からの寄贈本「医事関係訴訟委員会鑑定人候補推薦依頼事案アンケート結果」を受領した。

- (10) 厚生労働省からの寄贈本「医薬品・医療機器等安全性情報 No.340」を受領した。
- (11) がんの子どもを守る会からの通信文「国際小児がんデータキャンペーンのお知らせ」を受領した。
- (12) 科学新聞社からの寄贈本「科学新聞第 3618 号」を受領した。
- (13) 医学教育出版社からの寄贈本「KOKUTAI FREE No4」を受領した。
- (14) 厚生労働省健康局からの通信文「第 69 回保健文化賞候補者の推薦について」を受領した。
- (15) 日本学術振興会からの通信文「第 14 回日本学術振興会賞受賞候補者の推薦について」を受領した。
- (16) 黒住医学研究振興財団からの通信文「創立 25 周年記念特別研究助成金のご案内について」を受領した。
- (17) 厚生労働省医薬・生活衛生局からの通信文「医薬品・医療機器等安全性情報報告制度の周知について」を受領した。
- (18) 日本医学会からの通信文「第 22 回日本医学会公開フォーラムの開催について」を受領した。
- (19) 日本医学会からの通信文「日本医学会シンポジウムの開催について」を受領した。
- (20) 日本医学会から「ニボルマブ（遺伝子組換え）製剤及びペムブロリズマブ（遺伝子組換え）製剤の最適使用推進ガイドライン（非小細胞肺癌及び悪性黒色腫）について」を受領した。
- (21) 消費者庁から「玩具による子供の気道閉塞事故」についての協力依頼を受領した。認定施設宛にアンケートを送付してもいいかとの依頼で、協力する旨連絡したことが報告された。
- (22) 健やか親子 21 から「マタニティマーク 11 周年について」を受領した。吉澤小児救急検討委員長が健やか親子 21 の会議に出席していると報告がされた。
- (23) 「日本外科学会平成 29 年度第 1 回学術委員会」が 3 月 3 日に開催され、2018 年開催の日本外科学会学術集会で小児外科の分野のプログラムとしては、3 つ候補が上がっていると報告された。意見があれば山高理事を通して日本外科学会に伝えることとした。

2) 総合調整委員会報告（越永副理事長）

資料に基づき、以下の委員会報告があり、了承された。

① 学会の在り方と一般社団法人変更への準備について

前回の総合調整委員会からの継続審議事項として、小児外科の関連領域から小児麻酔科、小児集中治療科の医師からヒアリングを実施した。関連領域の医師に本学会会員になってもらうことで、それぞれの領域の相互の理解が深まることのメリットや必要性が確認され、今後具体的に勧誘に取り組む方向性が確認された。ただし、本学会への一方的に本学会へ勧誘するだけではなく、小児外科医も関連領域学会・研究会に積極的に参画し、相互の理解を深めることが重要であるとの認識が共有された。

② データベース整備事業予算の用途配分について

臨床効果データベース整備事業の名目でデータベース整備のための経費として本学

会に配分される予算について、事前に交わされた理事会メール審議の内容(NCD-専門医制度の改修、悪性腫瘍登録統合事業等に充当されること)が確認された。

③ NCDデータを用いた研究について

上記の審議に付随して、NCD データを用いた研究を開始する際のルール作りに議論があり、公平性を記すため、研究資金に応募する前に NCD 利用研究の申請を行うことを原則とすること、年に1~2回公募の締め切りを決めて広く応募を募り審議を行うこと、承認された研究のリストを公示することが提案された。

④ セミナーの在り方について

学術集会時の卒後セミナーは専門医取得を目的とするものとするが、必須とするか否かについては今後引き続き検討する。ポスト専門医の参加も妨げない。

秋季セミナーは専門医更新および研修指導医取得を目的とするものとし、5年間に1回参加を必須とするが、さらに単位を付与するかどうかについては引き続き検討する。

⑤ 外科領域とサブスペシャリティ6領域の検討委員会（仮称）会議について

小児外科専門医は現行のカリキュラム制、研修期間3年を踏襲するものとする、小児外科専門研修の開始宣言は、外科専門医研修 2 年終了時に行うことを前提に両専門医制度委員で審議を依頼した。次回理事会にて両専門医制度委員長より上記を盛り込んだおおまかなカリキュラム案が提出される予定となっている旨、報告された。

3) 日本小児連絡協議会（四者協）報告（黒田理事長）

以下の報告があり、了承された。

- ① 日本小児連絡協議会から日本小児医療保健協議会に名称変更が行われる。
- ② 日本小児科医会が次の当番幹事となる。
- ③ 一般社団法人化を進めている。

4. 審議事項

1) 専門医制度整備指針について（田尻施設認定委員長、増本専門医認定委員長）

田尻施設認定委員長、増本専門医認定委員長より資料に基づき、専門医制度整備指針について報告がなされ、一部文言を修正して回覧の後、承認することとした。

1.従来の専門カリキュラム制度からの主な変更点

・専門研修施設群

教育関連施設 A と B を設定。

教育関連施設 A（従来の教育関連施設と同基準）：小児外科専門医が最低 1 人常勤。直近 3 年以内の平均で年間 100 例以上の NCD 小児外科領域手術症例数、あるいは年間 10 例以上の新生児外科症例。うち 5 例は新生児外科手術例。教育関連施設 B：小児外科専門医が最低 1 人常勤あるいは非常勤。直近 3 年以内の平均で年間 50 例以上の NCD 小児外科領域手術数（小児外科専門医が 直接指導）。

・専門研修指導医

小児外科指導医、および小児外科専門医。専門研修指導医は「役割」であり、「資格」

である日本小児外科学会指導医と別名称

- ・開始

外科専門医プログラムの開始 3 年（卒後 5 年目）から、小児外科専門研修カリキュラム開始宣言が可能。小児外科学会に入会し、専門研修カリキュラム統括責任者の承諾のもと、小児外科専門医制度ホームページから研修開始を申請。開始宣言後、小児外科専門医筆記試験受験資格を得る（年次に関わらず受験可能）。

- ・手術経験

鼠径ヘルニア類 100 例以上の執刀経験を削除

初期臨床研修期間中および外科専門研修期間中に、小児外科専門研修施設群の施設で経験した症例（NCD 小児外科領域に登録されていることが必須）は、手術症例数に加算することができる（従来どおり）。

- ・学術活動

単位制に変更。

- ・評価と修了

専門研修医は、年次毎に研修の手引きと自己チェックリストで研修状況の確認と記録を行い、経験した手術症例を NCD 小児外科領域登録症例にて確認する。

3 年以上の研修、必要な臨床経験・学術経験を満たした時点で、研修カリキュラム統括責任者が面接を行い、自己チェックリストにより総括的評価。その後、小児外科専門医制度委員会で修了判定。

2.参考カリキュラムモデル

3.用語定義

- ・小児外科専門研修カリキュラム：

研修カリキュラム制とは、カリキュラムに定められた到達目標を達成した段階で専門医申請の受験資格が与えられるものである。研修年限については目標はあるが特に上限は定めない。小児外科ではカリキュラム制を採用し、3 年以上の研修期間を必要とする。（研修プログラム制とは、研修プログラムに定められた到達目標を、一定の年限以内に、年次ごとに定められた研修プログラムに則って研修を行い、専門医を養成するもので、研修施設群内での循環型の研修を行う（外科専門医制度など））

- ・専門研修医：

小児外科専門医資格を得るために、「小児外科に専従している常勤医師」のこと。

- ・初期研修医：

医師臨床研修制度のもと臨床研修を行っている医師

- ・認定施設：

専門医制度の定める専門研修カリキュラム基準を満たした基幹となる小児外科研修施設

- ・教育関連施設：

認定施設では研修できない部分を補うための専門研修施設群内の連携施設

- ・小児外科専門研修施設群：

認定施設およびその複数の教育関連施設からなる専門研修施設群

4.新専門医制度の今後のロードマップ案

- ① 平成 29 年度にカリキュラム整備基準、研修の手引きの詳細策定し、外科学会と連携して日本専門医機構の承認を得る。
- ② 平成 30 年度の小児外科学会評議員会でカリキュラム整備基準を承認し、一般公開。会員ページにおける研修の手引き掲載。
- ③平成 31 年度から新カリキュラム整備基準にそって、認定施設・教育関連施設の認定開始。(平成 31 年 1 月からの認定) 従来の認定施設・教育関連施設は、そのまま、更新年度に更新していく。
- ④平成 32 年 4 月から新カリキュラムに沿った小児外科専門医制度研修開始。
- ⑤ 平成 35 年度に新カリキュラムに沿った小児外科専門医認定、及び、更新開始。

2) 第 53 回学術集会開催報告 (田口前会長)

前田会長より資料に基づき、第 53 回学術集會会計報告がなされ、承認された。

3) 第 54 回学術集会について (仁尾会長)

仁尾会長および和田庶務委員より、資料に基づき準備状況が報告提案され、以下のよう
に承認された。

(1) 託児所設置については事前申し込み制と当日申し込みを採用し、申し込み受付は主催校運営事務局で行い、10 日(評議員会)の運営経費は学会に請求することとした。

(2) 抄録アプリのトップ画面デザイン案については、A②案が一番多く票を取り、A②案で発注をした。

(3) 事前登録を開始していることが報告された。(2017 年 1 月 12 日(木)～ 2017 年 4 月 6 日(木))

(4) 演題応募、演題採択数(率)が報告された。

(5) トラベルグラント、海外演題諾否状況リストが報告された。抄録アプリのホームページデザイン案については後日持ち回り審議にて決定することとした。

(6) プログラム日程表案、指定セッション一覧、学術集会 website プログラム、ISSBA Program が報告され、了承された。

(7) 医師、医療関係者、学生以外の参加費、一般公開が報告され、了承された。

- ・医師 事前登録 18,000 円 当日登録 20,000 円
- ・初期研修医 事前登録なし 当日登録 5,000 円
- ・医師以外のメディカルスタッフ 5,000 円
- ・医学部学生 無料(学生証、在学証明を要提示)

*外科専門医申請、更新のための学術集會参加 ID 登録番号の付与は「医師」として参加の場合のみ

**上記を基本とするが、それ以外のカテゴリー(企業、一般(患者団体など)、医学部以外の学生など)の参加者の登録(参加費)は会長(事務局)の判断で上記カテゴリーに振り分ける。

***胆道閉鎖症のこどもを守る会会員の聴講希望者(無料)

文化講演:一般公開(無料)予定

(8) 学術集会参加 ID の申請件数について、日本外科学会事務局への申請件数:2,000 件を予定している。(昨年度申請件数 4000 件)

(9) 学会主催セミナー、講習会などの会告について、日本小児外科学会雑誌 2 号(2017 年 2 月末締め切り)への会告掲載について、中西印刷より各担当委員会に、会告原稿(原稿分量:仕上がり半頁、47 字 x20 行、写真掲載なし)を案内、依頼済み。3 号(総会号)、学術集会プログラムの原稿分量、締め切りについては、中西印刷から案内、依頼予定。学術集会 website にも反映予定。

4) 第 55 回学術集会について(窪田副会長)

窪田副会長より、資料に基づき準備状況が報告提案され、前回理事会で報告した点から以下の点が追加され、承認された。

- (1) ポスター、レターヘッド、封筒のデザイン案が提示され、了承された。
- (2) ホームページ、学会アドレスについて、下記の通り準備を進めていると報告された。

<http://www.med.niigata-u.ac.jp/psu/JSPS55/Welcome.html>

jsps55@med.niigata-u.ac.jp

- (3) 運営事務局は以下の体制で提案があり、了承された。

株式会社 アド・メディック(学会運営)

一般社団法人 学会支援機構(演題関連業務)

株式会社 ウィザップ(印刷)

5) 第 31 回秋季シンポジウム開催報告(猪股前々会長)

猪股第31回秋季シンポジウム会長より資料に基づき、開催会計報告がなされ、承認された。

6) 第 32 回秋季シンポジウム開催報告(中野前会長)

中野第32回秋季シンポジウム会長より資料に基づき、開催会計報告がなされ、承認された。

7) 第 33 回秋季シンポジウムについて(島事務局)

島第33回秋季シンポジウム事務局より資料に基づき、準備状況の報告がなされ、承認された。

会 長:北川博昭(聖マリアンナ医科大学 小児外科)

会 期:平成29年(2017年)10月28日(土)

会 場:川崎市産業振興会館(神奈川県川崎市幸区堀川町66番地20)

主 題:腸管不全の現状と未来

8) 第 34 回秋季シンポジウムについて(松藤次期会長)

松藤第34回秋季シンポジウム会長より、第54回学術集会の期間中にキックオフミーティングが開催されると準備状況の報告がなされた。

9) 庶務委員会報告（菱木委員長）

菱木委員長より、資料に基づき報告がなされ、承認された。

2017年2月末現在の会員数は、評議員を除く正会員1,870名（うち海外3名）、評議員308名、名誉会員52名（うち海外6名）、特別会員70名（うち海外1名）の合計2,300名である。

入会申込時に所属の登録が無い方が2名いたため、その2名については所属先を確認したうえで、再度審議することとした。

10) 財務会計委員会報告（渡井委員長）

渡井財務会計委員長より、今回特に報告がない旨述べられた。

11) 各種委員会報告および審議事項

(1) 機関誌委員会（奥山担当理事）

奥山担当理事より、資料に基づき、以下の報告・提案があり承認された。

1. 直近の投稿論文の採択状況（2017.1-2月）

- ・新規投稿（17001-17020） 20編（原著4編、症例報告16編）
- ・採択 1月：10編、2月：8編
- ・不採択 8題

2. 超過料金の見直しに伴う、投稿規定の改定について

1月1日より投稿料改定に伴い、投稿規定の該当部分を改訂することになり、HPの改定を行った。

3. 転載許可申請について

(1) 九州大学の木下義晶先生より下記の通り第53回学術集会での記録原稿を使用したい旨の依頼があり、許可した

(2) 獨協医科大学越谷病院小児外科（池田均先生）より、下記論文を当科小児外科発行の業績集「あゆみ」に転載したい旨の依頼があり、許可した。

五十嵐昭宏，菊地健太，長谷川真理子，他：リチウム電池誤飲による食道異物：症例報告と本邦報告例の集計．日小外会誌 52:1342-1349, 2016

4. Dr. Jay L. Grosfeld の追悼文の執筆について

順天堂大学名誉教授 宮野武先生に依頼し、2017年6月12日入稿、53巻5号(8月号)に掲載)の予定となった。

5. 長屋先生からの寄稿「呼吸を思う」について

長屋昌宏先生より、表記寄稿があり、機関誌委員会で審議の結果「編集者の手紙」として掲載することになり、理事会で無料での掲載が承認された。次号（52巻2号）に掲載の予定。

6. 秋季シンポジウム記録の掲載について

中野美和子先生に期日までに原稿を入稿していただく旨の連絡をいただいた。

7. 優秀論文の選定について

1 次選考で原著、症例報告各 5 編に絞り、2 次選考にて全員で原著 12 点満、症例報告 9 点 満点で採点を行った結果、最高得点を得た以下の 2 論文が委員会から推薦があり、承認された。

原著：住田 互，小野 靖之，渡邊 芳夫，高須 英見，大島 一夫，小松崎 尚子：直腸脱に認められた直腸の仙骨への固定不良. 52 (1) : 83-88

症例報告：福原 雅弘，永田 公二，栗山 直剛，久田 正昭，三好 きな，孝橋 賢一，田口 智章：腓頭部病 変を有する先天性高インスリン血症に対して十二指腸温存腓頭部切除術を施行した 1 例. 52(7):1321-26

今回の選考手順が妥当であったということで、来年度以降も同様の選考方法を継続するように、成文化して内規として定めることになった。

8. 査読者の手引きの作成について

査読を公正かつ円滑に行うために、査読者の選定基準や、査読方法に関して一定の基準を設け、査読者の手引きの草案を作成し、委員会で審議して倫理規定や、2 重投稿に関する記載を一部改変した。また、手引きが長すぎるという理事会の意見をもとに、査読依頼時に添付するための A41 ページの簡易版「日本小児外科学会雑誌」投稿論文ご査読に際しての注意」を作成した。細かい修正点は奥山担当理事に連絡することとし、内容について概ね承認された。次回理事会で最終版を提案することとなった。

(2) 国際・広報委員会報告（黒田担当理事）

黒田担当理事より、以下の報告があり承認された。

1. WOFAPS 抗議文送付とその後の経緯について、WOFAPS 事務局で本会から送付した抗議文がストップされており、WOFAPS 役員に直接送付した。WOFAPS としては副会長を 2 名置くということになる予定。

2. ISPSR2017 (International Symposium on Pediatric Surgical Research) 2017 年 9 月 8 日～10 日 New Delhi Prof. D.Gupta 会長 会員への情報提供・リンク (www.ispsr2017.com) を掲載した。

3. ホームページ改訂作業 継続について、英文表記の見直しは各自確認することとし、意見があれば黒田担当理事に報告することとした。

4. ホームページ管理 (パブリック・コメント募集、ガイドラインなど)

5. 学会 HP へのリンク依頼への対応について、以下の手順で進めることが承認された。

・企業、外部団体からのリンク依頼は本会が準備している申請書を提出してもらう。

・理事長・副理事長・学術担当理事の 3 名で一次審議を行ない、詳細な検討を要する事案と思われた場合は、さらに理事会で二次審議を行なう。

・一次審議で必要と考えられた場合には学術委員会の答申を添えて理事会審議へ回す。

(3) 保険診療委員会 (廣部担当理事)

廣部担当理事より、資料に基づき以下の報告があり承認された。

1) 平成 30 年度診療報酬改定要望の進捗状況 (外保連経由)

3 月 8 日に外保連から平成 30 年度診療報酬改定に向けた改正要望用のエクセルファイルや注意事項などの資料が配布された。下記の通り担当を決めて要望書および概要図の作成準備を進めており、3 月 31 日までに必要書類を外保連へ提出する予定である。

(技術新設)

1. 小腸移植術：小高明雄委員長 (移植用小腸採取術・生体、移植用小腸採取術・死体、同種死体小腸移植術、生体小腸移植術に分けて 4 つの提案書を日本移植学会上野豪久先生に作成して頂き、本会は実務的な確認作業を担当)
2. 腸管延長術 (STEP 法)：神保教広委員 (外保連試案新規掲載、承認済)
3. 腹腔鏡下胆道閉鎖症手術：田中裕次郎副委員長 (最新の治療成績と厳しい施設基準を記載)
4. 胸骨挙上用固定具 (ペクタスバー) 抜去術：益子貴行委員 (外保連試案新規掲載、承認済)
5. 食道瘻造設術：荒井勇樹委員 (主に先天性食道閉鎖症で造設する理由を記載)

(技術改正)

1. 腹腔鏡下総胆管拡張症手術(K674-2)の増点:檜頭成委員 (要望根拠として外保連試案の手術時間が 5 時間から 8 時間へ延長されたことを記載)
 2. 一酸化窒素吸入療法 (J045-2) の適応拡大：矢内俊裕委員 (記載内容について日本周産期・新生児学会へ確認)
 3. 自動縫合器加算(K936)の適応拡大、腹腔鏡下総胆管拡張症手術、腸管延長術 (STEP 法)、腹腔鏡下胆道閉鎖症手術を追加：井上幹也委員
 4. 組織試験採取、切採法 直腸(D417 10)の増点:鈴木孝明委員
 5. 交通性陰嚢水腫手術(K835 1)の増点：日本小児泌尿器科学会担当
 6. 精索捻転手術、対側の精巣固定術を伴うもの(K838 1)の増点：要望取り止め
 7. 静脈麻酔、複雑な場合(L001-2 3)の増点および算定要件の変更：日本不整脈心電学会担当
 8. 筋肉注射による全身麻酔、注腸による麻酔(L001)の適応拡大：要望取り止め
- 2) 日本小児期外科系関連学会協議会 (JAPSS)

2 月 23 日に平成 28 年度第 2 回定例会議が開催された。平成 30 年度診療報酬改定の要望項目について審議が行われ、当学会からはパリビズマブ (シナジス) の保険適応拡大 (生後 24 か月齢以下の先天性横隔膜ヘルニアの児および修復術を受けた児、生後 24 か月齢以下の先天性食道閉鎖症の児および修復術を受けた児) を提案して採択された。また、JAPSS 法人化への今後の作業予定について説明があり、当学会には法人履歴事項全部証明書と黒田達夫理事長の法人印鑑証明書を用意するようにとの依頼があった。

(4) 教育委員会 (山高担当理事)

山高担当理事より、資料に基づき以下の報告があり承認された。

1. 第 33 回日本小児外科学会卒後教育セミナー及び第 8 回日本小児外科学会 内視鏡手術セミナーについて

申し込み方法も含めた両セミナーの詳細は『小児外科学会雑誌』54 巻第 2 号及び第 3 号（学術集会抄録号）に掲載予定。又、学会 website の最新情報欄にも掲載中である。

2. 平成 28 年度第 4 回総合調整委員会での教育委員会報告について

専門医制度に向けての今後の卒セミ・秋セミのあり方を委員会で今後検討。

3. 「人生の最終段階の医療に関する用語およびガイドライン策定に関する調査」への協力について

筑波大学の田宮菜奈子先生より日本医学会分科会宛に用語に関するアンケート調査への協力依頼があり、委員会で作成、回答済み。

(5) 悪性腫瘍委員会（米倉担当理事）

米倉担当理事より、データベース委員会と関連する項目が多いため、データベース委員会報告と一緒に報告する旨、述べられた。

(6) 学術・先進医療検討委員会（八木担当理事）

八木担当理事より、資料に基づき以下の報告があり承認された。

1. 新生児外科全国調査と報告

① 前委員会での委員会プロジェクト論文が PSI に掲載された。

Sato M, Hamada Y, Kohno M, Ise K, Uchida K, Ogata H, Masuyama H, Morotomi Y, Yasufuku M, Wada M. Neonatal gastrointestinal perforation in Japan: a nationwide survey. *Pediatr Surg Int.* 2017 Jan;33(1):33-41

② 新生児外科全国集計 集計ロジック作成、データスクリーニングを終了し、集計データの解析 準備中である。しかし、データベース委員会の解析チームより、非手術例の扱いや死亡率の項目での死亡の定義が問題であることが指摘され 修正中である。

2. 会員対象のアンケート調査依頼の審査および認可

① 2016 年 12 月 14 日に、聖マリアンナ医科大学放射線医学講座三村秀文先生より、『『血管腫・血管奇形・リンパ管奇形診療ガイドライン 2017（第二版）草案』のクリニカルクエスチョン推奨、総説の査読』について依頼があり、委員会審議後 12 月 30 日に依頼者に委員会報告を行った。2017 年 3 月 7 日に回答が届き、3 月 8 日～15 日で委員会審議が終了する予定である。

② 2016 年 3 月 7 日に、日本胆道閉鎖症研究会会長田口智章先生より、「胆道閉鎖症ガイドライン」の学会承認に関する依頼があり、3 月 8 日～15 日で委員会審議が終了する予定である。

3. 先進医療及び学術的情報収集および会員への情報提供

① HP 上に小児外科診療に関連したガイドライン・治療指針を掲載する。

新規ガイドライン掲載候補のピックアップは終了し、委員会内で検討後、著作権許可を

得る予定である。ガイドライン集は、今後、毎年春から夏に更新する予定である。

② 小児外科関連 Systematic Review の掲載を HP に掲載する。

2016 年の SR 論文 38 文献のピックアップが終了し委員会内で作業を開始した。今後、毎年春から夏に更新する予定である。

4. その他

① 英文化されたガイドラインの承認への対応を明文化すべく、草案を委員会で作成した。本理事会終了後、1週間を目途に特に意見が無い場合は、承認とすることとした。

- ・英文化された診療指針（ガイドライン）およびこれに準じた研究成果の承認に関する規定（案）
- ・診療指針（ガイドライン）およびこれに準じた研究成果の承認に関する規定（案）

(7) 倫理・安全管理委員会（漆原担当理事）

漆原担当理事より、特に報告事項はない旨、述べられた。

(8) データベース委員会（米倉担当理事）

米倉担当理事より、資料に基づき以下の報告提案があり承認された。

1) 平成28年度第5回データベース委員会議事録より

臨床効果データベース(DB)整備事業の活用

- ・ AMEDの[小児領域における臨床効果データベース(DB)整備事業]から小児外科として700万円の資金を確保することができた。
- ・ ①NCD-専門医制度の改修、②小児の外科的悪性腫瘍の全国登録集計と小児血液がん学会とのWeb登録の連携、③NCD-Pを用いた新生児外科全国集計の解析、の3案件に500万円が確定しており、200万円分の用途が未定であり、DB委員会各メンバーから提案がなされた。
- ・ 内視鏡外科手術におけるデータベースと術後長期フォローアップを可能とする患者データベースを構築することが委員会内で決定された。
- ・ 今後3月末までに見積もりを提出できるようにワーキングメンバーにてデータベース構築作業を行う。

Annual report完成までの作業工程 NCDデータの解析

1. 専門的な統計パッケージソフトを用いて解析（SPSS：15・20万円相当）。
 2. 最低限のSPSS操作に慣れるまで数か月～1年程。
 3. SPSSのより細かな操作には年単位の訓練が必要（数値・文字列の変換や欠損値処理、複雑な解析コードの作成等）
 4. NCDデータの利用は限られた場所で、限られた権限を有する者の監督下でのみ使用可能（時間と場所の制約が極めて大きい）
- 2) NCD 2011-2012のannual report を用いたデータのupgrade版の国際発信用のレポートの投稿について、論文にデータ入力ミスの可能性のあることを書き添え

た上で提出することが承認された。

- 3) NCDデータを利用した臨床研究：虫垂炎（藤代先生）については、臨床研究の内容としては特に問題はなく、先に研究費獲得してからであったが、内規にもそれが認められないことは定められていなかったため、認めることとした。

(9) 小児救急検討委員会（奥山担当理事）

奥山担当理事より、以下の報告があり承認された。

- ・2017年度学術集会開催時の小児救急セミナー

5月11日（木）18:10～19:10（予定）

「小児外科救急に役立つIVRの適応と現状」

講師： 国立成育医療研究センター放射線診療部 野坂俊介先生

東北大学放射線診断科 高瀬圭先生

司会：奥山宏臣

- ・小児救急受け入れ体制

HP上に掲載している小児救急受け入れ体制の更新が滞っていたため、認定施設宛に更新依頼をメール配信にて行う予定。また、年次報告に絡めて毎年更新できるようにすることとなった。

- ・小児集中治療ワークショップ

日本小児集中治療研究会から小児集中治療ワークショップの共催依頼の打診があり、まずは理事長宛に正式な依頼文を送付してもらうこととした。

(10) 利益相反委員会（漆原担当理事）

漆原担当理事より、以下の報告・提案があり承認された。

1. 2015年度の役員の利益相反状態の確認

2016年12月に2015年度の役員の利益相反状態について確認書を配布し、1月に集計後、学会事務局並びに委員長で内容の確認を行った。結果として、利益相反が問題になる役員はいないという結論となった。2016年度については4月中に確認書を配布し、確認業務に移る予定である。

2. 学会誌の査読者の利益相反状態の確認について

機関紙委員会に依頼し、学会誌の論文著者に加えて、論文の査読者に対しても、利益相反状態の問い合わせを行っている。現在まで問題になる投稿はなかった。

3. 医療安全講習会

平成25年度より、倫理安全管理委員会と共催の形で、年1回、倫理安全管理・利益相反講習会を開催していた。平成28年度より、新専門医制度の関係で、倫理安全管理委員会と共同で3つのセミナーを開くこととなった。今年度は、利益相反委員会が担当となった医療安全講習会について、以下のように開催予定である。

日時：5月13日（土）16:00～17:00

場所：第1会場（大ホール）

講師：日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部部長 坂口美佐先生

タイトル：小児外科における医療事故事例の傾向

(11) ワークライフバランス検討委員会（廣部担当理事）

廣部担当理事より、資料に基づき、以下の報告・提案があり承認された。

1. 活動報告

①第 4 回 WLB 講演会報告

詳細については、今後委員会 HP 上に掲載予定。

2016 年 10 月 27 日（木）19 時～20 時

演題 「Just Do It～やるっきゃない」

講師 松本晃 氏 株式会社 Calbee 代表取締役社長兼 CEO

参加者 53 人（女性 21 人、男性 32 人）

支援金報告：日本医師会に報告書、参加者名簿、領収書等を提出し、支援金受領済み。

計187,822 円

医学生・研修医対象の支援であり、次期委員会でも申請することを検討する方向。

②HP の充実へ向けて

- ・医学生や研修医への情報発信をよりアクティブに行うべきである。産婦人科や耳鼻科の HP を参考に、当委員会の HP 改訂すめる。HP の体裁については、原案を作成（HP 担当平井）し、メール会議で決定。
- ・当委員会の活動の 3 本柱：①啓発活動（HP、講演会）②ポジティブアクション（推薦女性評議員、学術集会での継続的な特別企画）③問題解決のシステム作り、に則して記事を分かり易く分類整理し、各々の活動内容や活動報告を充実させる。

2. 今後の活動計画

①第5回WLB講演会について PSJM2017・秋季シンポジウム会期中に行う予定。

②第 54 回日本小児外科学会学術集会 特別企画について

日時：平成 29 年 5 月 13 日（土）8：30～9：20

テーマ：女性小児外科医の活躍促進-ダイバーシティ時代を迎えた小児外科のこれから

形式：3 演題とディスカッション（すべて指定）

八木 實先生、新開 真人先生、望月 響子先生

司会：廣部誠一、中原さおり

内容：日本小児外科学会では、男女共同参画およびダイバーシティ（多様性）の実現を積極的に進めていくことを表明している。このような取り組みを紹介するとともに問題点およびその解決策について討論する。

3. 平成 29 年評議員選挙での理事長推薦女性評議員の推薦基準について

選挙前検討：評議員の条件は会員になって 3 年であればよい。専門医でなくてよい。推薦女性評議員は、原則として立候補者の中から選ぶ。これを踏まえ、選挙前案内文（理事長より Web 案内、当委員会よりメール）発信した。

結果、今回の選挙では女性立候補者が 44 名以上と、例年に比し倍増する効果があった。

検討課題：

落選者の中から、当委員会として推挙する方を選出する基準について

- ・ 正確な立候補者名簿の入手が必要である。
- ・ 推薦女性評議員は、人数の増加のみならず、委員会活動に参加して学会運営に関わる機会を経験してもらうことも大きな目的であることを再確認。
- ・ 委員会活動に参加する本人の意思については、今回の選挙前案内文に明記しており『立候補すなわち意志あり』と判断でき、推挙に際し本人への確認は不要である。

以上より、当委員会としての推挙基準は、学会員としての経歴を基として、①指導医資格を有している。②専門医資格を有している。③会員歴が長い。の3つとし、この順序を基軸とする。

(12) トランジション検討委員会（八木担当理事）

八木担当理事より、資料に基づき、以下報告があり承認された。

今期の活動として、まずはガイドブックを作成したこと、患者サマリーに共通項目があるため、最終的に委員長が書式を統一して今期のプロダクトとすることとした。

(13) 規約委員会（越永担当理事）

越永担当理事より、資料に基づき、以下報告があり承認された。

データベースの二次利用について、制度化がされていないため、評議員会で承認の後、来年から実施することを予定している。

12) 選挙管理委員会報告について（菱木委員長）

菱木委員長より、以下の通り報告・提案され、承認された。

- ・ 3月7日に第3回選挙管理委員会を開催、選挙管理委員会立会いのもと開票を行った。
- ・ 有権者数 1,972 名、投票総数 1,702 票、有効投票数 1,702 票となり、開票結果は当選者 301 名、落選者 93 名となった。

また、女性委嘱評議員については、ワークライフバランス検討委員会で委員会報告の条件に従い、選定することとした。

13) 名誉会員・特別会員推戴について（黒田理事長）

審議の結果、以下の3名を本年度推戴候補者として内諾を確認の後、評議員会に諮ることとした。

名誉会員推戴候補者：濱田吉則先生

特別会員推戴候補者：高野邦夫先生

14) 他学会からの委嘱評議員制度について（黒田理事長）

黒田理事長より、従来実施してきている日本小児麻酔学会との委嘱評議員制度につき、継続していくかどうか提案され、審議の結果、今後も継続的に実施していくこととなっ

た。

15) ICD-11 開発にかかる WHO からの加盟国への意見募集について (黒田理事長)

黒田理事長より、日本医学会から ICD-11 開発にかかる WHO からの加盟国への意見募集についての文書が届いたと報告があり、保険診療委員会で検討して意見を送ることとした。

16) 次回評議員会における報告・承認事項の確認 (黒田理事長)

黒田理事長より、次回評議員会における報告・承認事項の確認がされ、以下の重要な点について再度確認がなされた。

1. 会費の値上げ
2. 一般社団法人化
3. 新専門医制度
4. 秋季セミナー
5. 教育関連病院の専門医

17) 次回定例理事会日程の確認(黒田理事長)

次回理事会は平成 29 年 5 月 10 日 (水) 10:00~14:00 ホテルメトロポリタン仙台にて開催することが確認された。

理事長 _____

理 事 _____

理 事 _____